

大気環境テーマに出前授業

赤穂市職員 汚染状況など説明



赤穂高2年生7人学ぶ

赤穂市海浜町の赤穂高校で、大気環境をテーマにした出前授業があった。総合科学探究類型の2年生7人

が、市内の汚染測定状況や地球温暖化について、同市環境課の中濱祐介係長(36)

大気環境について説明する中濱祐介さん。赤穂高校

から幅広く学んだ。

科学への理解や関心を深めようと、連携協定を結ぶ市に同校が講師派遣を依頼。同類型の前身の理数コースで学んだ卒業生の中濱さんが初回を担当した。

中濱さんは大気汚染を測定する監視局が市内に8カ所あることを紹介。肺の奥まで入り、呼吸器などへの影響が懸念される微小粒子状物質「PM2.5」などの危険性を訴えた。市内での測定値は環境基準を下回るが、「光化学スモッグが最近出てきている」と警鐘を鳴らした。中国大陸から風に乗って飛来する黄砂対策など、国レベルで研究が進められていることも説明

した。

中村琥大さん(17)は「監視局を見たことはあるが、詳しくは知らなかった。赤穂から地球規模の状況まで詳しく分かった」と喜んだ。中濱さんは「いろいろなことに関心を持ち、進む道を見つける一助に」と、後輩の今後の活躍に期待した。

(坂本 勝)